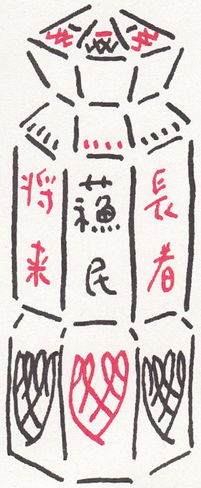
be a good neighbor

ぼくの上田案内



岡本 仁

2011年3月1日発行

文・写真　岡本 仁（Landscape Products Co.,Ltd.）
デザイン　松永 ケイ子（Landscape Products Co.,Ltd.）
発行者　湯本 隆

発行所　arkansas（アーカンソー）
〒386-0012　長野県上田市中央 1-2-23
TEL　0268-25-8508

この地図の情報は 2011 年 1 月現在のものです。
無断複写・転載を禁じます。

定価 50円（税込）

BE A GOOD NEIGHBOR

信州の鎌倉。

別所温泉に行ってみようと思ったのは『サマーウォーズ』のロケ地めぐりのためではなく、もちろん温泉に浸かりたいがためでもなく、上田電鉄別所線の改札脇に「おぎのや」の売店を見つけたからである。

駅に近いホテルの部屋で朝早くに目が覚めた。いつものことだ。天気がすごく良かったので、電車に乗って峠の釜めしを朝ご飯のかわりに車内で食べようと思い立った。着いたらコーヒーでも飲んで、正午までにまた上田に戻り、昼御飯は『べんがる』。そんな計画にほくそ笑みながら、身支度を整え駅に向かう。売店は開いたばかりという感じだった。小さな貼り紙があって、釜めしの販売は 9 時半頃からと書かれている。いまさら戻る気もしなかったから、そのまま電車に乗った。ボックスシートではなく江ノ電のようなベンチシートだ。釜めしを持っていたとしても、どのみちこの車内では食べられそうになかったのだった。

江ノ電の名前をあえて持ち出したのは、別所温泉が「信州の鎌倉」と呼ばれているからなのだが、緑深い山間を走りながら行くのだろうと思っているうちに電車はあっさりと別所温泉駅に着いてしまった。9 時くらいだっただろうか。駅舎の外に出てちょっと歩くと、信州の鎌倉シャトルバスの停留所というのがあった。そうか、山道を行くのはバスなのかもしれない。ならば、帰りはこのバスに乗って塩田駅まで戻ろう。そう決めて、さて、それまでの時間をどうしようかと考える。友人が持たせてくれた別所温泉の観光ガイドマップを引っ張りだし、とりあえずいちばん近そうな常楽寺を目指した。途中に喫茶店や茶屋があれば、そこで時間を潰して寺を拝観することもなく帰ったかもしれない。しかし、まだ早い時間だからかどこも開いていないのだ。開いてなかったことが幸いし、常楽寺の裏にある多宝塔に見とれ、境内にある「梅楽苑」という茶屋の小さな庭に置かれた縁台で、抹茶と梅ゼリーをいただいた。遠くの浅間山をながめながら、ちょっと鎌倉の『大佛茶廊』の庭先で抹茶をのんびりいただくときの気分に似ていないこともないと思う。帰りのシャトルバスは、のんびりとした田園道を走った。農作業をする人たちを窓から見ながら、タイ北部のメーチェムという村の風景を想い出した。

予想していた以上に別所温泉を楽しんでいたのだけれど、何故ここが「信州の鎌倉」なのだろうかとずうっと気になっていた。鎌倉時代に塩田北条氏が治めていた地と聞けば、歴史的な由来があることはわかる。でも「東洋のナポリ」的な呼称がなくたって、別所温泉には別所温泉の魅力があるのにというモヤモヤが消えるわけではない。もしかしたら、その前日に食べた「信州サーモン」が、実は鮭ではなく鱒、トラウトなのだと知って、鱒には鱒のおいしさがあるのだからわざわざサーモンと呼ぶ意味が分からないと、ブローティガンの『アメリカの鱒釣り』が大好きな自分は、上田の友人たちに憤慨してみせたということと関係があるのかもしれない。

べんがる讃。

もしも誰かに「どうして上田が好きなのか」と質問されたら、最初に入った店が『べんがる』だったからと答えるだろう。上田の魅力、とりわけ『べんがる』については、トマスに何度か聞かされていた。本当にうまいカレーを食べさせてくれるのだろうなと、こちらまで嬉しくなってしまうような喋り方だった。だから、トマスの運転ではじめて上田へ来たとき、駐車場に車を入れるなりまっすぐ『べんがる』に向かったのは当然であって、まるでそれだけが目的のような勢いだったのである。

アーケードのある通りから脇に折れて路地に入る。そこから『べんがる』の扉に辿り着くまでの距離が、近過ぎず遠過ぎず、胸が高鳴るのにちょうど良い長さなのだと、行くたびにいつも思う。細長い店内は左側にカウンター、右側にチェックのクロスをかけた四人掛けのテーブルが三つ。空いていれば一番奥のテーブルに座る。そしてカウンター越しに調理するご主人の背中をながめるのだ。厨房は狭い。狭いから機能的にできている。長い年月にわたって使いこまれてきた場所と道具だけが持っている、ぴかぴかとは違う種類の輝きと美しさがあるのでつい見とれてしまう。その間に、テーブルに小ぶりのガラスコップに入ったスープと、これまた小ぶりのガラスボウルに盛られたコールスローサラダが置かれている。頼むのはいつもポークカレー。メニューには「ポークカリー（一般向）」と書かれてあって、辛さが一番マイルドだという意味らしい。スープを飲み酸味が程よいコールスローを食べているうちに、あれは何と呼べばいいのか、アラジンの魔法のランプみたいな形の容れ物に入ったカレールウとライスが運ばれてくる。店内の設え、食器、そしてもちろん味も、自分の中に子供の頃からある「町でいちばんの洋食屋」という理想のイメージと寸分違わない。最後に出て来るミルクティーを飲みながら、次はいつ来られるのか予定を立てたりしていると、食事が終わってしまったことがだんだん悲しくなって来る。

以前、自分の趣味は『サライ』を連想させ、食べ物はやたら池波正太郎系が多いと言われたことがある。それを言ったのはぜんぜん知らない人だ。ちなみに自分は『サライ』を読んだことはないし、『べんがる』も、そこが池波正太郎が通った店だからと知って行ったわけでもない。もし、いま流行の店が、何度も通うべき価値があるのだったら、そのことをすぐ人に知らせたいと思う。あるいはできたばかりの店が、10年経ってもいまと同じように続いていてくれると感じられるのなら、とても嬉しくなるはずだ。その場所でどれだけの時間を過ごしたか、これからどれだけの時間を過ごしたいと思うのか、これまでたくさんの人が愛着を持ってその場所で過ごしたかがどれだけこちらに伝わってくるのか。自分にとっていちばん大切なのは、そういうことだと考えている。だから『べんがる』が好きなのだ。

とんかつ放浪記。

話の始まりは『まんぷく』というとんかつ屋である。とんかつ王子と異名を持つ人物が絶賛する店だそうだ。知人と酒を飲んでいて、最近は上田に良く行くのだと言ったら、じゃあ『まんぷく』のとんかつはどうだったかと訊かれた。知らないと答えるなり、とんかつ王子の話をされたのである。知人は行ったことがあるらしく、とにかく熱く絶賛するものだから、万障繰り合わせてその店に脂でなければならないという気持になった。しかし上田でとんかつを食べるのはちょっとした難題だ。理由はふたつ。ひとつは、カミさんが食べないので、一緒のときにとんかつという選択はない。もうひとつは、たとえカミさんが一緒じゃなかったとしても、上田に行ったなら何よりもまず『べんがる』のカレーを優先してしまうため、短い滞在中にそれ以外のものを食べる機会をなかなか作れない。それではいつまでたっても実行できないから、今回は泣く泣く『べんがる』を諦めて勇んで『まんぷく』に向かった。ところが遠目からも店が開いている様子がない。嫌な予感をかかえながら近づくと、入口に貼紙があった。「水道破裂工事のため、しばらくお休みいたします。」なんという不運と思いながらも、一方で、これで大手を振って『べんがる』でカレーが食えるぞとほくそ笑む自分がいた。いやいや、それでは永遠に上田のとんかつを試せないではないか。そういえば、上田に住む友人たちから『まんぷく』を評価する声はついぞ聞いたことがない。彼らは『藤かつ』という店がご贔屓だと言っていたし、『こぶたや』も好きなのだそうだ。どうやら上田はとんかつ激戦区のようである。たしかにぶらぶら町歩きをしていると、豚肉料理の店を見かけることがやたらと多い。

地図を頼りに『藤かつ』を目指す。すぐに見つかったが、定休日という札が下がっていた。前に見かけた『歩留久』という店の方へ歩く。店の外にかけられた品書きの一番最初に「刺身」と書いてある。“ポルク”とはいえとんかつがあるのかどうかがわからない。当てずっぽうに『こぶたや』を探す。『歩留久』へ向かう際に『べんがる』の前を通ったからか、頭の隅で、もうとんかつじゃなくてもいいという声がする。『こぶたや』の扉を開けて中に入ったのに、まだ気持がゆらゆらしていた。先客のテーブルを見ると、美味しそうな、しかし巨大なカツ丼が運ばれるところだ。レジの横に立っていた女性から、どうぞお好きな席へと声がかかる。この期に及んでもまだなお『べんがる』が頭から離れず、咄嗟に「カツサンドを持ち帰りで」と声に出したのが、果たして自分だったのかどうかはわからない。とにかく席についてカツサンドを待つ。すぐ横の壁に「当店の人気メニュー」という紙が貼り出されてあった。カツサンドは 4 位。「ロワールベーカリーのパン使用」という解説を読む。前にそのパン屋で角食を買ったことがある。なかなか好みの味でまた食べたいと思っていたけれど、カミさんから『ルヴァン』のカンパーニュを買ってくるように申しつかっていたので今回は諦めていた。なんだかふたつの難題を一気に片付けられたような爽快な気分になる。やがて運ばれてきたカツサンドは、トーストした角食に、ソースがたっぷりとかかったヒレカツと大量のキャベツの千切りが挟んである、実に食欲をそそるものだった。

上田マップ UEDA MAP

01 清野たいやき店
時間帯によっては行列ができます。上田駅からここまで歩いていくと言ったら「無理です」と止められたけれど、ぜんぜん歩けますよ。

02 ルヴァン
旧北国街道沿いにある古民家（酒蔵だったらしい）を再生した店舗。天然酵母パンの老舗の上田店です。カフェとレストランも併設。いつもメランジェというパンをおみやげに買って帰ります。

03 soin cafe
2010年2月にオープンしたカフェ。そば粉のガレットを食べられるのが何より嬉しいです。

04 coffee room wataryo
喉がかわいてひと休み。新聞読んだり文庫本を読んだりは、こういう喫茶店にかぎります。

05 エトワール
遠目にも目立つ洋菓子屋さん。ぼくのお目当ては鳩車サブレ。クルミ粉入りでおいしい。形も愛らしくナイス。鳩サブレーと並べてみたい。

06 平林書店
岩波文庫がとても充実しています。上田にはいつも本を持たずに手ぶらで行って、ここで岩波文庫を買って読んでいるのです。

07 玉喜屋
創業は江戸時代という和菓子屋さん。まんじゅう、餅菓子、おやきなどにまじって「マヨどらバーガー」などの新作菓子もあるから、どれにするか迷ってつい長居。

08 こぶたや
前は「仏蘭西亭」という名前だったそうです。皿や丼が大きくて驚きます。高座豚ロースとんかつは1日15食限定。

09 TSURUYA 上田中央店
長野県らしい食材や加工品が手に入る大型スーパーです。蜂の子の缶詰もありました。

10 富士アイス
志"まん焼しか食べたことないけど、歩きながらの糖分補給はこれにしています。火傷注意！

11 喜光堂
どの町の商店街にもありそうな普通のお茶屋さん。ほうじ茶を入れる袋のデザインが好きです。

12 べんがる
この店の良さについて伝えたいことは、あり過ぎるくらいたくさんあります。でもたぶんうまく伝わらないような気がする。いつも11時に上田に着く新幹線に乗るのは、ここに直行してカレーを食べるためです。

13 木の実
べんがるの並びにある喫茶店。満腹後の放心タイムはここで過ごします。

14 福昇亭
開店前にぽつぽつと人が並びはじめる人気店。五目焼きそばが有名。かた焼きそばのあんかけ、つまりは皿うどん。芥子酢をたっぷりかけて食べます。厨房の中にある階段を上っていく二階には、まだ入ったことありません。

15 甲州屋
市内唯一（だと思う）のスクランブル交差点に面した喫茶店。ショーウインドウに飾られた古い蘇民将来符のコレクションを、外からついついながめてしまいます。

16 栄屋工芸店
木彫りの鳩のシュガーポットなどがあります。そういえば上田は農民美術運動の中心地だったところ。

17 万年筆の庄村
万年筆専門店。ところで、何本か持っていたぼくの万年筆、どこへ消えたんだろう…。

18 刀屋
上田と関わりの深い池波正太郎が絶賛した蕎麦屋さん。全国のイケナミストが訪れるので、休日昼時ともなると店の前に長い行列ができます。

19 まつお工芸店
古道具屋さん。運が良ければ古い蘇民将来符が見つかる、かもよ。

20 corona
自家焙煎コーヒーの店。でも入口に置かれた看板にはパフェの名前が4種くらい書いてある。チョコレートパフェを食べてみたけど、甘過ぎない大人な味でした。

21 papa orso
店の前に停まっているフィアット500が目印のイタリアンレストラン。器のように真ん中をくり抜いた、でっかいチーズの中であえてくれるリングィーネも美味かったなあ。

22 arkansas
ここで「さつまもの展」が開催されたことで、ぼくの上田通いが始まりました。センスの良い衣料品と雑貨が揃ってます。

23 みすゞ飴本舗 飯島商店
接客がいつも気持ちよい。こちらも上品にふるまわなければ恥ずかしいなと、自然に思わせてくれるような感じ。四季のジャムは、いつもどれを買うか迷ってしまいます。あと、三宝柑福居袋（11月頃から4月頃まで限定販売のゼリー）は絶品。

24 ロワールベーカリー
朝7時からやっているそうです。町のパン屋さんはこうでなくっちゃ。菓子パン、調理パン、いろいろあって楽しい。

25 お城の坂道
松本城址に続く緩やかな長い坂道の途中にあるカフェレストラン。「ソースかつ丼」というメニューがすごく気になっているのですが、まだランチタイムに行ったことがない。

26 若菜館
創業 80 年の老舗鰻屋さん。馬刺や信州サーモン（鱒のことなんですけど）のサラダなど上田らしいメニューもあるけど、ぼくは白焼で熱燗をちびちびやりながらってのがいいな。

27 おぎのや
上田電鉄別所線改札の横に峠の釜めしのおぎのや。釜めしは午前9時くらいから販売らしい。で、立ち食い（座れますけど）そばとうどんもやっています。

28 かれ～専科 邦（POO）
しなの鉄道上田駅の改札横にあるカレー屋さん。晩酌セット（生ビール中か日本酒一合か焼酎2杯につまみ3品がつく）にいつか挑戦したい。もちろん薬膳カレーにも。